

気候情報

2014年10月の日本の天候

- 相次いで上陸した2つの台風の影響で、ほぼ全国的に多雨
- 北日本と東日本日本海側で日照時間が多かった
- 北日本で10月としては11年ぶりの低温

10月の天気概況

月を通して全国的に天気は数日の周期で変化したものの、相次いで上陸した台風第18号と第19号の影響で、ほぼ全国的に月降水量が多く、東日本ではかなり多かった。北日本と東日本日本海側では、大陸から移動してきた高気圧に覆われることが多く、月間日照時間が多かった。北海道地方と沖縄県の八重山地方では、台風や低気圧の影響が小さかったため月降水量が少なかった。特に、八重山地方では、7月以降、少雨の状態が続いている。また、偏西風が日本の東で南へ蛇行して、北日本では寒気がしばしば流れ込み、10月としては2003年以来11年ぶりの低温となった。

上旬：西日本太平洋側と沖縄・奄美では台風第18号や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多かった。2日から4日にかけては、本州付近を低気圧と前線が通過し、北日本から西日本にかけて、曇りや雨となった。その後、6日にかけては、北・東日本に寒気が入り気温が低くなった。一方、9月に発生した台風第18号は、4日から5日にかけて日本の南を北上し、6日朝には静岡県に上陸したため、東北地方から九州地方の太平洋側、奄美地方、大東島地方で大雨となった。この台風による4日から6日までの降水量は、天城山（静岡県）で489.0 mm、南部（山梨県）で419.5 mmを観測するなど、東日本太平洋側を中心に400 mmを超える大雨となった。このため、土砂災害や浸水害が発生し、神奈川県や茨城県には人的被害もたらされた。9日から10日にかけては、台風第19号がフィリピンの東から沖縄の南へ進み、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では曇りや雨となった。旬平均気温は、北日本で低かった一方、東・西日本と沖縄・奄美で高かった。旬降水量は、東日本でかなり多く、北・西日本太平洋側では多かった。一方、沖縄・奄美で少なかった。旬間日照時間は、西日本太平洋側でかなり少なく、沖縄・奄美で少なかったが、北日本太平洋側で多かった。

中旬：北・東日本では移動性高気圧に覆われて晴れる日が多かったものの、台風や前線の影響で全国的に降水量は多かった。台風第19号は、12日に沖縄本島を通過、13日朝には鹿児島県に上陸、14日にかけて四国と本州を北東進し、全国的に大雨となった。この台風による10日から14日までの総降水量は、国頭（沖縄県）の557.5 mmをはじめ、宮崎県や高知県などで400 mmを超えた。その後は、東・西日本と沖縄・奄美では冷涼な移動性高気圧に覆われ、概ね晴れて気温が低くなった。旬平均気温は、沖縄・奄美で低かつ

た。旬降水量は、北日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側と東・西日本で多かった。旬間日照時間は、東日本で多かった。

下旬：全国的に晴れた日が多かったが、気温の変動が大きかった。23日にかけては、前線が北日本から日本の南へゆっくりと南下し、その後は、北日本を中心に寒気が入り気温が低くなった。また26日から27日には、前線の通過後に寒気が入り、北海道地方では各地で初雪を観測した。旬平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美で高かった。旬降水量は、西日本日本海側で多かった。北日本太平洋側ではかなり少なく、北日本日本海側と沖縄・奄美で少なかった。旬間日照時間は、北日本と東日本日本海側、沖縄・奄美で多かった。一方、東日本太平洋側では少なかった。

10月の気候統計

月平均気温：北日本で低く、東・西日本と沖縄・奄美で平年並だった。

月降水量：東日本でかなり多く、北日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美で多かった。北日本日本海側は平年並だった。

月間日照時間：北日本と東日本日本海側で多く、東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美は平年並だった。

(気象庁観測部情報管理室)

10月の記録（1位更新のみ）

- ・月降水量多い方から（mm）
輪島 368.5
- ・月降水量少ない方から（mm）
西表島 12.5

2014年10月の平年差（比）図

